

大学入学共通テストへの民間試験導 入見送り決定を受けて

日本テスト学会シンポジウム
大学入試の「英語」はどこに向かうのか

2021（令和3）年9月25日（土） 9:00～11:30

渡部良典（上智大学） yjwatana@gmail.com

論点と対策案

1. 実証研究は入試改革の効果は限定的だということを示している
 - 制度改善には実証研究の成果の検証と、理論的な枠組みの設定が欠かせない。
2. 民間試験はそれぞれが特徴を備えたテストであり共通テストの代わりにはならない
 - 両者は棲み分けするのが妥当。
 - 到達度テストの基礎研究が必須。
 - 高校、大学それぞれの段階で充実した教育を行う。その上で証明書を発行する。
3. 「4技能」は便宜的な分け方である
 - 読む、聞く、書く、話すはその先にある最も大切な目的を達成するための手段。
 - 技能の統合（integration）が必要。
4. 語学の授業に学際性を求める

1a. 実証研究は入試改革の効果は限定的だ ということを示している

- 波及効果（washback）の研究：1990年代からイスラエル、台湾、中国、日本、米国、英国、等々、教育環境の異なる国・地域で行われている。
 - 波及効果 ≡ 意図された影響（≡ intended influence）
 - 対象となるテストからその効果を予測する。
 - 指導法、指導内容を授業観察、面談、質問紙等で収集・比較検証。
 - 制度改革前と後、試験内容の変更の前と後、新試験導入前と後、新試験導入の指導と現試験の指導の比較等々。

1a. 実証研究は入試改革の効果は限定的だ ということを示している（続）

- 試験の影響－波及効果はテストに係るstakeholders（＝教員・学習者・結果を利用する人々）を介してもたらされる。
- 試験には負の効果（negative washback）と正の効果（positive washback）がある。
- 質の高いテストが正の効果を生むわけではなく、質の低いテストが負の効果を生むわけではない。
- テストの質と波及効果の質は異なる次元にある。

1b. 正の波及効果をもたらすために

- 理論的枠組みが必要
- イノベーションの普及理論 (diffusion of innovation theory)
新機軸普及の条件
 - **comparability** 両立可能性: 従来の指導法と両立可能であること
 - **complexity** 複雑性: 導入の手続きや実施方法が複雑すぎないこと
 - **relative advantage** 相対的優位性: 従来の方法よりも利点が多いと認識しうること
 - **trialability** 試行可能性: 小規模で効果を試してみることができること
 - **observability** 観察可能性: 効果が目に見えること
- 等々を満たす必要があることが知られている。(e.g., Rogers & Shoemaker, 1971; Henrichsen, 1989).

1b. 正の波及効果をもたらすために（続）

• 教育イノベーションの普及理論

- 新たな指導法が一旦採用されても広まるにつれて当初の意図とは違う形になること－**再構成re-invention**－がある。→ **意図されていない波及効果（unintended washback）**
- たとえ民間試験が共通テストの代わり導入されたとしても、結局のところ当初の意図とはかけ離れた広まり方をすることもあり得る。
- 実施に続く結果の評価と改善のプロセスを考慮した長期的な展望と理論的枠組みと長期的な視点が今後の制度改革には必要。

2a. 民間試験はそれぞれが特徴を備えたテストであり共通テストの代わりにはならない

参考資料 D

異なる能力を測定している可能性が高い

IELTS と TOEFL iBT の相関

Score	相関係数
IELTS Listening & TOEFL Listening	0.63
IELTS Speaking & TOEFL Speaking	0.57
IELTS Reading & TOEFL Reading	0.68
IELTS Writing & TOEFL Writing	0.44
IELTS Total & TOEFL Total	0.73

ETS (2010) https://www.ets.org/s/toefl/pdf/linking_toefl_ibt_scores_to_ielts_scores.pdf

名称	年間受験者数	得点の有効期限	実施頻度・時期	主たる試験会場	受験料	スピーキング・テストの方法と測定対象能力
ケンブリッジ英検	550万	制限なし	2－3回	札幌、仙台、東京、静岡、長野、名古屋、大阪、広島、福岡	11,880円～9,720円	受験者同士の対話 写真について質疑応答、ディスカッション等
Linguaskill						
実用英語技能検定	339.4万	制限無し 留学用は2年間	3回	(周辺エリアを含む) 北海道16, 東京23以上(「その周辺」)、他227カ所以上(「その周辺」)	5,800円～4,800円	録音式：音読、内容理解の質疑応答、絵画描写等
GTEC	126万	2年間	2回から5回	4技能：札幌2、仙台、船橋、新宿、飯田橋、武蔵小杉、横浜、名古屋栄、東梅田、大阪、岡山、広島、福岡	5,980円～9,900円	録音式：音読、内容理解の質疑応答、絵画描写等
IELTS	3.7万全世界290万	2年間	40回	東京テストセンター：札幌、仙台、埼玉、東京、横浜、長野、金沢、静岡// 大阪テストセンター：名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、福岡、熊本	25,380円	面接官との対話、インタビュー、スピーチ、ディスカッション
TEAP	2.4万	2年間	3回	26都道府県（北海道、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、長野、静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、広島、香川、福岡、長崎、熊本、沖縄）	6,000円（2技能）～15,000円（4技能）	面接官との対話、ロールプレイ、スピーチ、等
TEAP CBT	700	2年間	3回	全国13都道府県（北海道、宮城、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野、愛知、京都、大阪、兵庫、広島、福岡）	15,000円（4技能）	録音式：質疑応答、要約、読解・図表等。
TOEFL iBT	非公表	2年間	40－45回	北海道札幌3、東北（秋田1、宮城－仙台2）、東京21、中国（広島2）、四国（香川1、高知1）他44カ所、	\$ 235	録音式：与えられたテーマについて、読解・聴解についてまとめ等

参考資料：英語4技能資格・検定試験懇談会運営（n.d.）英語4技能試験情報サイト http://4skills.jp/qualification/cambridge_English.html 2020年2月10日をもとに作成。

CEFRのA1からC2は能力の差を表しているわけではない

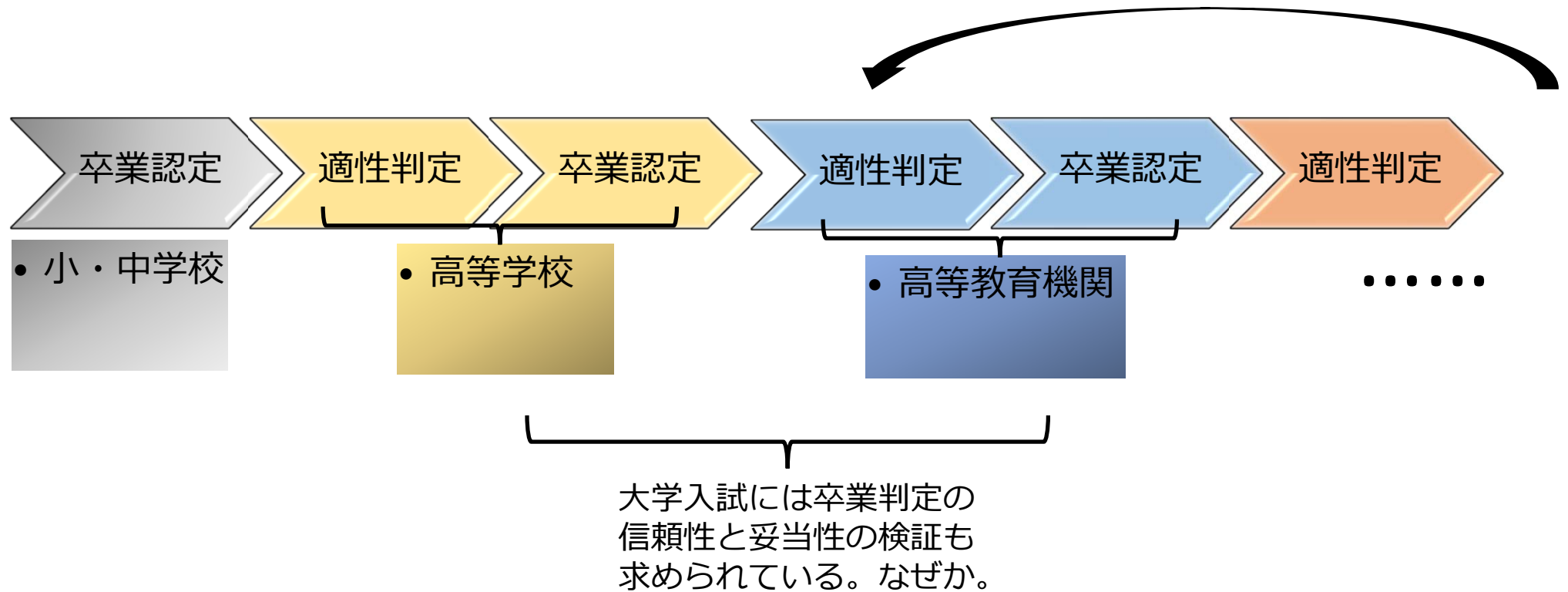
	A1	A2	B1	B2	C1	C2
	基礎段階の言語使用者		自立した言語使用者		熟達した言語使用者	
5. ほぼ完璧な程度まで達成	5	5	5	5	5	5
4. かなりの程度まで達成	4	4	4	4	4	4
3. 半分程度の達成度で	3	3	3	3	3	3
2. ある程度までは達成	2	2	2	2	2	2
1. 最低限のレベルは満たしている	1	1	1	1	1	1
言語能力一般	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的 情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができ	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができ。経験、出来事、	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者となり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢 について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を 表現できる。
他に「読む」、「聞く」、「書く」、「口頭でやり取り」、「口頭で表現」の記述がある。ここでは省略						
	A1	A2	B1	B2	C1	C2
	基礎段階の言語使用者		自立した言語使用者		熟達した言語使用者	
ケンブリッジ英検	ケンブリッジA2 Key					
			ケンブリッジB1 Preliminary			
					ケンブリッジB2 First	
					ケンブリッジC1 Advanced	
英検					C2 Proficiency	
	英検3級					
	英検準2級					
			準1級			
GTEC					1級	
	Core					
	Basic					
	Advanced					
IELTS			CBT			
TEAP			4.0 - 5.0	5.5 - 6.5	7.0 - 8.0	8.5 - 9.0
TEAP CBT			225 - 308	309 - 374	375 - 400	
TOEFL iBT			235 - 415	420 - 595	600 - 795	800
			42 - 71	72 - 94	95 - 120	

2b.各テストの棲み分けが必要

- 高校、大学それぞれで充実した教育を行って、成果を証明する。
- 共通テストは到達度テスト（achievement test）
 - 高校までの達成度を示す指標として使うのが適切。
 - 形成的評価（formative assessment）からの情報も必要。
 - 到達度テストの基礎研究が必要
- 各大学の個別試験は熟達テスト（proficiency test）
 - 各高等教育機関がAP、CP、DPに応じて実施。
 - 妥当性の検証が必要。

入試制度よりも各教育レベルでの教育を充実させること

大学入試は経済から批判される。なぜか。



3a. 「4 技能」は便宜的な分け方

- 4 技能は手段であって目的ではない。
- 読む、聞く、書く、話すはその先にある最も大切な目的を達成するための手段。（≡ 阿部、2020、『理想のリスニング』、「第11章 空間に慣れる—諸技能を連携させる」）
- 言語能力（構成概念）のとらえ方（言語理論）はさまざまである。
- 民間試験導入案では4 技能が目的化されていた。

4 技能 Four skillsの捉え方

	Receptive	Productive
Written language	Reading	Writing
Spoken language	Listening	Speaking
Enabling skills	Grammar	Vocabulary

3つの様態 Three modes

Interpersonal 対人・相互関連 mode requires two-way interactive communication.

Interpretive 理解・解釈 mode views the learner as a reader or listener/viewer working with 'text' whose author or deliverer is not present or accessible.

Presentational 発表・産出 mode places the learner as speaker or writer for a 'distant' audience.

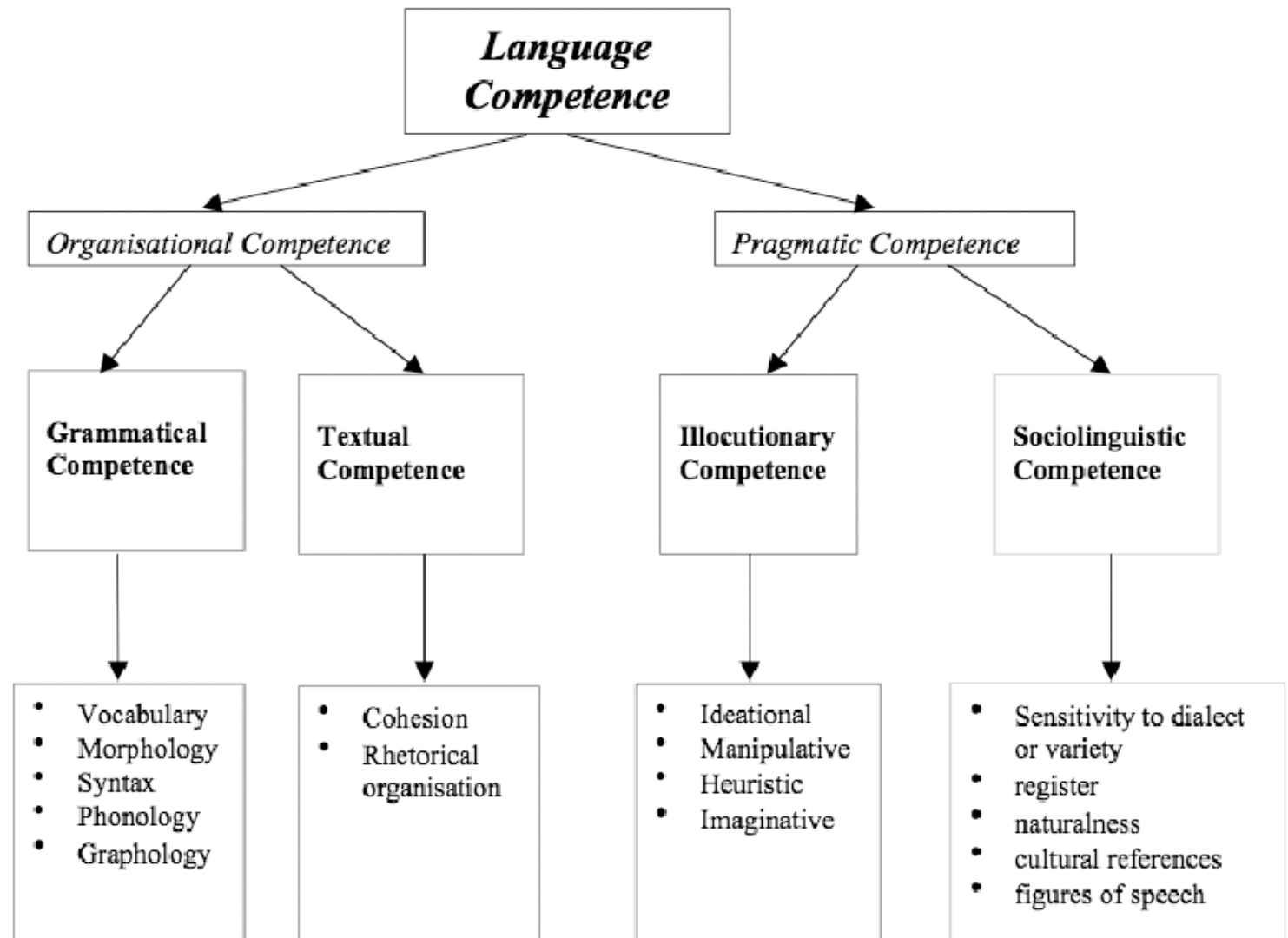
(Phillips, 2008)

BICS と CALP (Cummins, 1979)

- **BICS** = Basic Interpersonal Communicative Skills
(日常生活を営む上で必要となる基本的な言語能力)
- **CALP** = Cognitive/Academic Language Proficiency
(認知的に高度な能力が要請される言語能力)

Communicative Competence (Bachman, 1990)

https://www.researchgate.net/publication/296197344_Changes_Challenges_Achievements_Computers_in_the_University_Classroom/figures?lo=1



Common European Framework of Reference (Council of Europe, 2001)

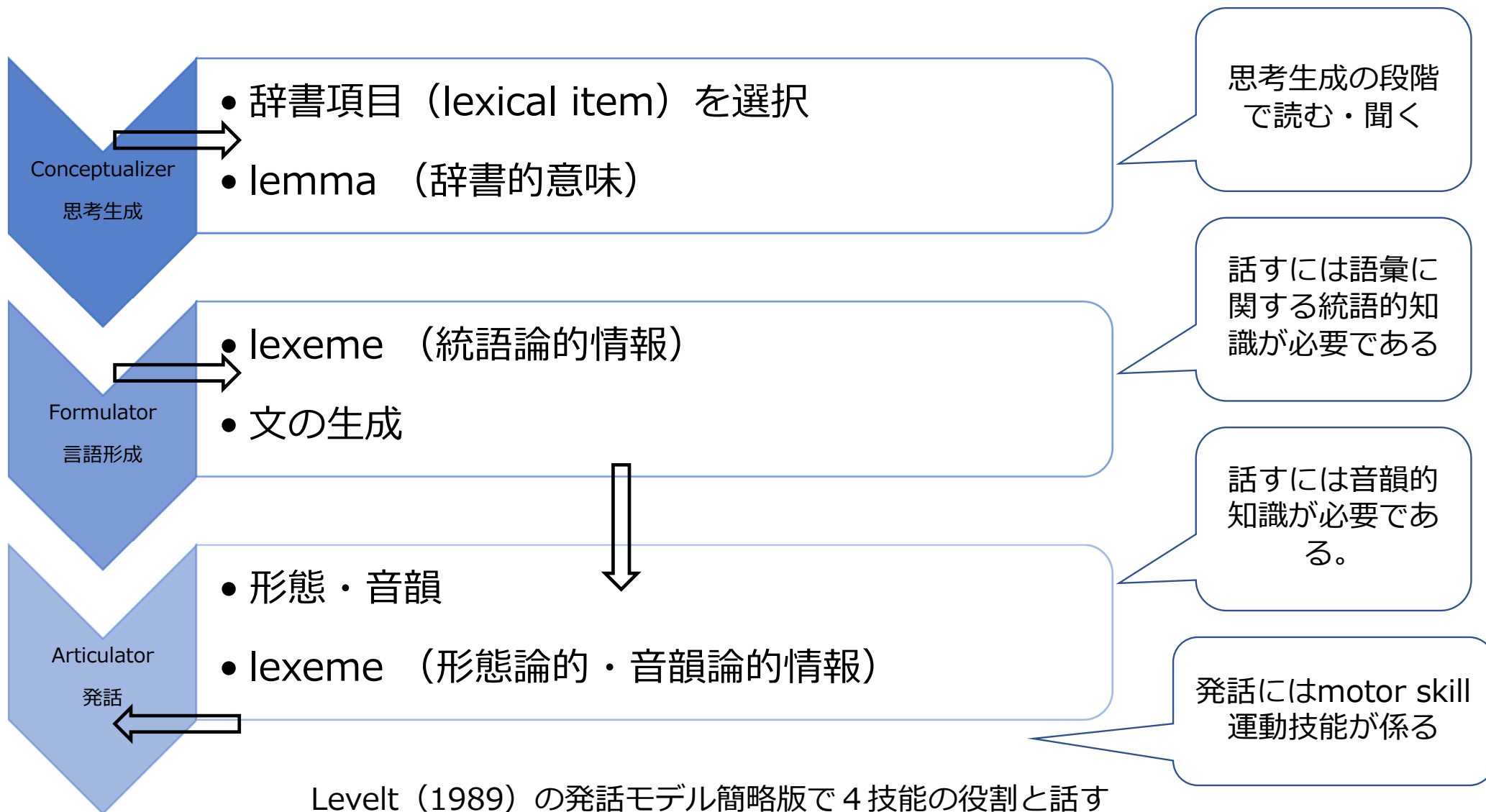
	A1 Breakthrough	A2 Waystage	B1 Threshold	B2 Vantage	C1 Effective operational proficiency	C2 Mastery
	Basis user		Independent User		Proficient User	
Listening						
Reading						
Spoken interaction						
Spoken Production						
Writing						

＊CEFR (2018) 補遺 Companion Volumeでは手話 Sign Language も対象言語とするなどの改訂が行われており、新たな言語観が示されている。

＊“... plurilingual and intercultural education. ... The CEFR consists of far more than a set of language proficiency levels” (p. 23).

3b. 技能の統合（integration）が必要

- 言語運用の観点から
 - 実際の言語活動で、読み、書き、聞き、話す、どれか1つの技能だけを使うのは極めてまれ。
 - 資料を読み → 講義を聞き → 討論をして → 小論文にまとめる
 - 教科書を読み → 授業で理解を確認 → ディスカッション → プレゼンテーション → 要約
- 外国語習得の観点から
 - 受容能力は産出技能を使うことで向上する。



Levelt (1989) の発話モデル簡略版で 4 技能の役割と話すことの複雑さを理解する

英語[2] 即興でやり取りをする

2019年令和元年度
実施全国学力学習状
況調査の結果から統
合能力が弱点である
ことが推測できる

あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続けていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

アラン先生が見せている写真



A: Look at this picture of my family.

This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

Do you have any other questions about them?

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
2	1 やり取りを踏まえた内容（ナンシーやトムに関連した質問）を，正確な英語（語や文法事項等の誤りがない）で解答しているもの (正答例) ・ What kind of food does your brother cook? ・ What subject does your mother teach?	8.4	◎
	2 やり取りを踏まえた内容を解答しているが，コミュニケーションに支障がない程度の誤りがあるもの (正答例) ・ What kind of food does your brother cooks? ・ What subject do your mother teach?	2.1	○
	3 やり取りを踏まえた内容を解答しているが，コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	6.5	
	4 やり取りを踏まえた内容を解答していないもの	33.5	
	5 既出の情報について質問しているもの	0.9	
	99 上記以外の解答	27.8	
	0 無解答	20.7	

10.5% of the students formulated orally an acceptable question.

20.7% of the students did not say anything.

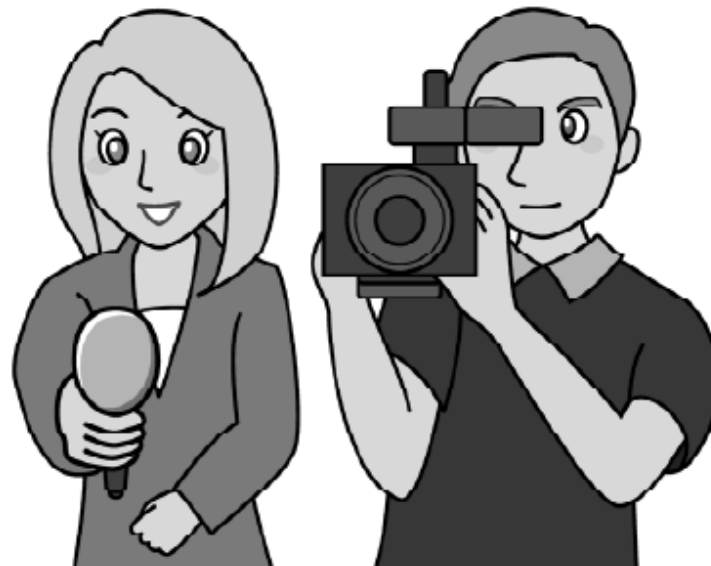
英語③ まとまりのある内容を話す

あなたの学校で、海外のあるテレビ局が「世界の子供たちの夢」というテーマで番組を収録しています。画面にある話してほしい内容の①、②について、英語で話してください。1分間、内容を考えたあと、30秒で話します。それでは、内容を考えましょう。
それでは、30秒で話してください。

話してほしい内容

(①、②のどちらも話してください)

- ①あなたの将来の夢、または、
将来やってみたいこと
- ②その実現のために頑張っていること、
やるべきこと



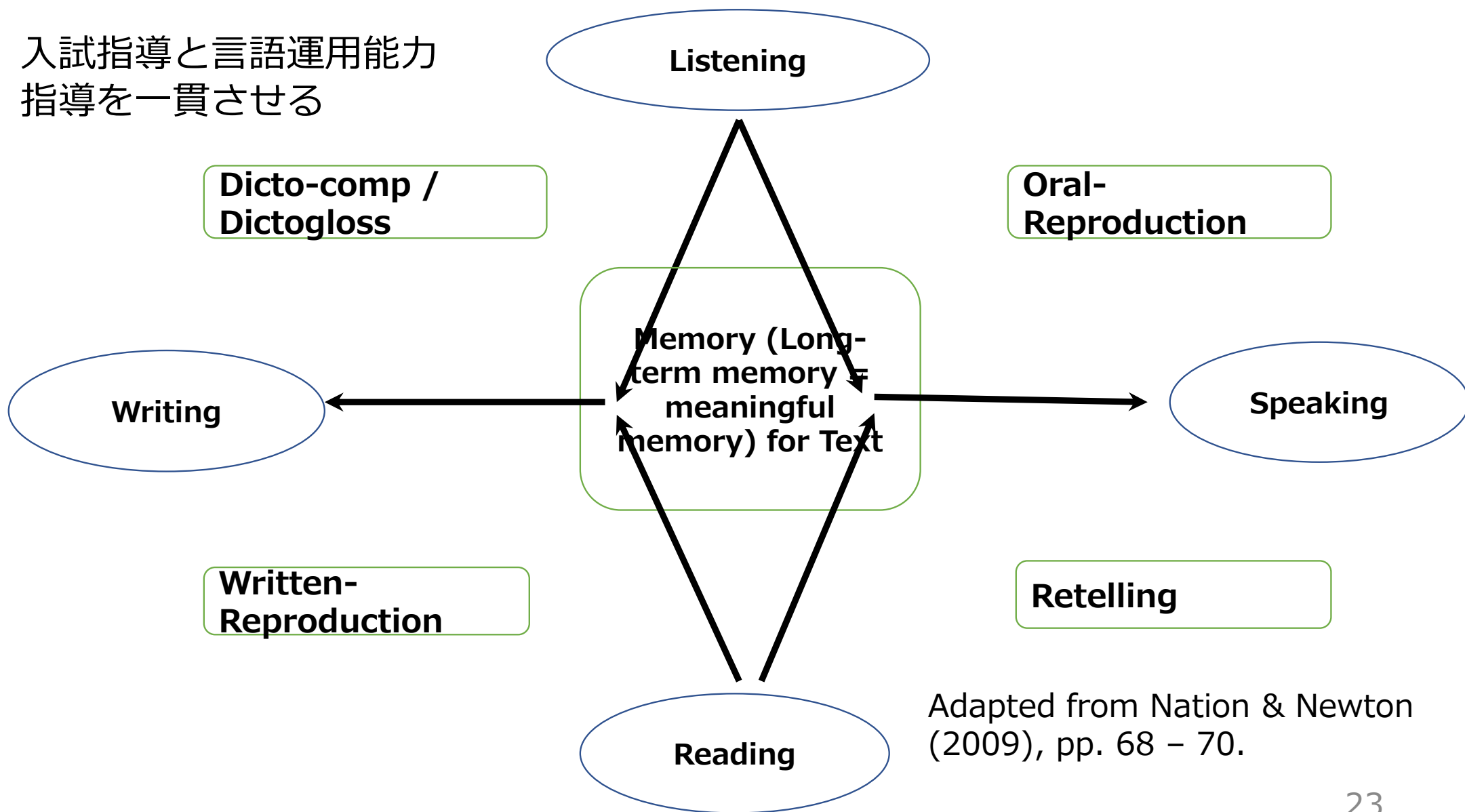
1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
3	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 将来の夢、または、将来やってみたいことについて話している。 ② その実現のために頑張っていること、やるべきことについて話している。 (正答例) ・ I want to be a farmer and grow delicious vegetables. My grandfather is a farmer, so I will help him and learn many things from him.		
	1 条件①, ②を満たし、正確な英語 (語や文法事項等の誤りがない) で解答しているもの	40.0	◎
	2 条件①, ②を満たし、おおむね正確な英語 (コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない) で解答しているもの (正答例) ・ I want to be a farmer and <u>growing</u> delicious <u>vegetable</u> . To be _ good farmer, I should study science harder.	5.8	○
	3 条件①, ②を満たして解答しているが、①と②の関連性がない、または分かりづらいもの	0.3	
	4 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	14.4	
	5 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	13.3	
	6 条件①, ②を満たさないで解答しているもの	20.4	
	99 上記以外の解答	1.1	
	0 無解答	4.6	

45.8% of the students produce a coherent text, which was acceptable in the light of the criteria.

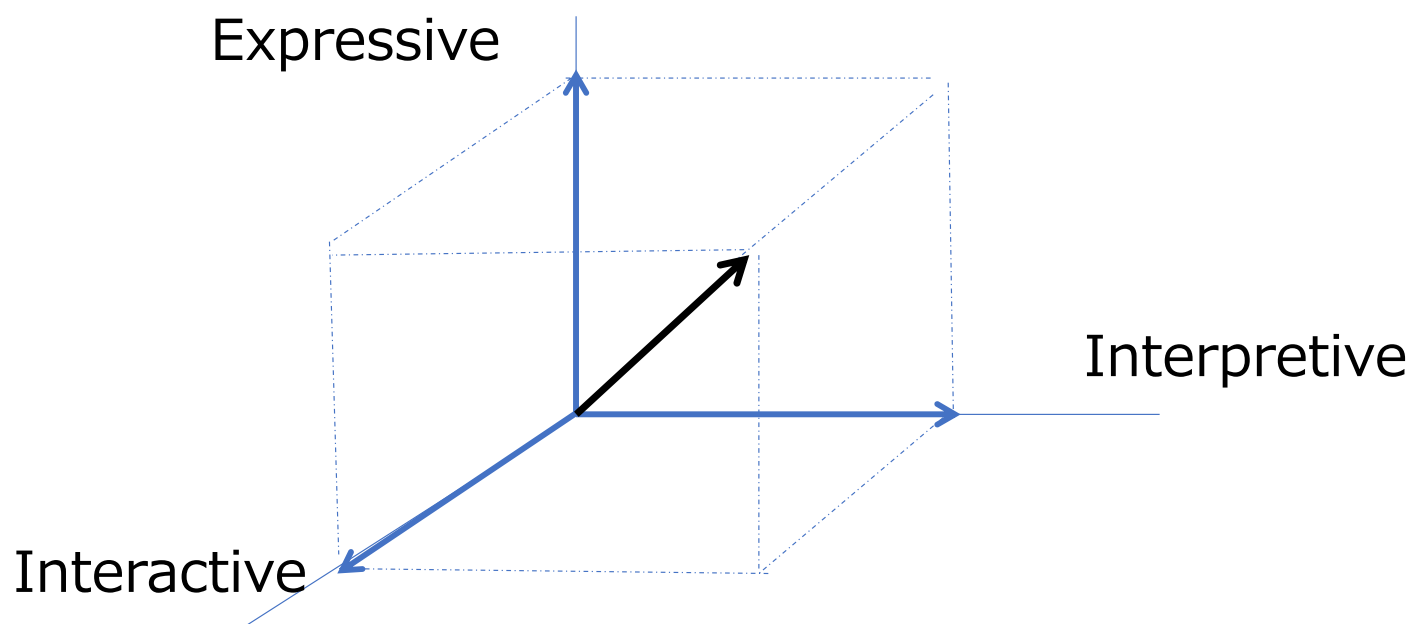
4.6% of students said nothing.

入試指導と言語運用能力
指導を一貫させる



Adapted from Nation & Newton
(2009), pp. 68 – 70.

言語技能と運用能力の関係をベクトル風にとらえる



Adapted from Watanabe (2018)

→
= fully-fledged language use ability

2021年実施共通テストの特徴をセンター試験との比較で検討する（渡部、2021）

- **構造**を重視した言語観（**正確さ**重視） → **機能**言語学的言語観（**適切さ**重視） Chomsky流 → Halliday流
- BICS（**日常生活**を営む上で必要となる基本的な言語能力） > CALP（**認知的に高度な能力**が要請される言語能力＝「新学習指導要領」の思考・判断）
- 明示的（explicit）言語習得観 → 暗示的（implicit）言語習得観への移行
- 明示的（explicit）指導法＝重要な語彙、文法、文章構造等を教師が説明し、練習を重ねることによって習得を促す。暗示的（implicit）＝指導法は意味の理解を通して学習者が無意識のうちに語彙や文法を習得することを重視し、語彙や構文の説明は最小限におさえる。

今後の共通テストに望みたいこと

- 統合的運用能力を測定
 - 入学後の二ーズもある程度は考慮した作問
 - 英語の講義に生徒が英語で質問している場面を設定した課題等で、大学入学後を見据えた英語運用能力の評価を合わせて行うことで大学入試としての意義を高める。
 - 間接的な測定を視野に置く

今後の共通テストに望みたいこと（続）

- 共通テストでは発音、語彙、文法問題が廃止された。
 - 暗示的指導の効果を前提。
- 実証研究に基づいた再検討が必要。
 - 第二言語習得研究の示すところ、暗示的指導法が明示的指導法よりも優れているわけではない。
 - 学習効果を上げるためにはそれぞれ果たすべき役割が異なることを示している。
 - 例えば、筆記で行われていた発音、語彙、文法の知識と運用能力を聴解テストを通して測定する選択肢もあり得る。

4. 語学の授業に学際性を望む

- 英語（外国語）の時間に他教科の内容を取り入れる。
- 英語（外国語）教育こそ人文学、社会科学、自然科学の融合を図る絶好の機会。
- 小学校レベルの知識すら英語の時間に教えられていない。
 - 平行四辺形、四則演算、世界史の知識、人名の発音、… (Watanabe, 2021)
- 批判的思考能力、常識的判断力等、第1言語で培われた認知能力を第二言語で発揮。

References

- Bachman, L. (1990) *Fundamental considerations in language testing*. Oxford University Press.
- Bachman, L. & Palmer, A. (1996). *Language testing in practice*. Oxford University Press.
- Cummins, J. (2001). *An introductory reader to the writings of Jim Cummins*. C. Baker & N. H. Hornberger (Eds.). Multilingual Matters.
- Henrichsen, E. (1989). *Diffusion of innovations in English language teaching: The ELEC effort in Japan, 1956 – 1968*. Greenwood.
- Levelt, W. (1989). *Speaking: From intention to articulation*. MIT Press.
- Rogers, E., & Shoemaker, F. (1971). *Communication of innovations: A cross-cultural approach*, 2nd ed. The Free Press.
- Philips, J. K. (2004) Foreign language standards and the context of communication. *Language Teaching*, 41,1, 93 – 102.

References

- Watanabe, Y. (2004). Methodology in washback studies. In Cheng, L., & Watanabe, Y., with Curtis, A.. *Washback in language testing*. (pp. 19 – 36), Routledge.
- Watanabe, Y. (2018). Assessing language in the framework of three-dimensional model of language learning: Insights from the research into washback. Paper presented at KELTA (the Korea Language Testing Association).
- Watanabe, Y. (2021). Assessing CLIL. In Ikeda, M., Izumi, S., Watanabe, Y., Pinner, R., & Davis, M. *Soft-CLIL and English language teaching: Understanding Japanese Policy, Practice and Implications*. (pp. 121 – 147), Routledge.
- 渡部良典 (2020) 大学入試のあり方に関する検討会議 (第6回) R2.4.23 提出資料. chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgicfindmkaj/viewer.html?pdfurl=https%3A%2F%2Fwww.mext.go.jp%2Fcontent%2F20200422-mxt_daigakuc02-000006583_6.pdf&clen=1168902&chunk=true
- 渡部良典 (2021) 大学入試のあり方に関する検討会議 (第22回) R3.3.4 提出資料. chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgicfindmkaj/viewer.html?pdfurl=https%3A%2F%2Fwww.mext.go.jp%2Fcontent%2F20210311-mxt_daigakuc02-000013064_12_1.pdf&clen=992072&chunk=true
- 渡部良典 (2021) 『日本経済新聞』 8月31日朝刊27頁.